

研究結果報告書

所属:モンゴル国防大学国防研究所
役職:上級研究員
氏名:ハムスレン・バヤル

研究結果

日本・モンゴル関係史の研究においては、1939年のノモンハン事件と1945年のモンゴルの対日作戦が中心となっており、日本のシベリア出兵と外モンゴルとの関係や、大正時代における日本の北東アジア進出に対する外モンゴル政府の対応などについては、ほとんど注目されてこなかった。その主な原因はモンゴル語・ロシア語の資料が欠如していたことによる。

本研究では、モンゴル、ロシア、日本の公文書館で資料調査を行い、新たに発見された歴史記録に基づいて、日本人の外モンゴルでの活動をモンゴル語・ロシア語の資料により検証すると同時に、日本の北東アジア進出に対する外モンゴル政府の対応を中心に、大正時代における日本・モンゴル関係を明らかにすることを目的としている。

その結果、日本の諜報員コダマに対するモンゴル軍の活動を記録した資料などを発見すると共に、日本の大正時代に大島清や宮崎嘉一などの日本の諜報員、商人などがモンゴルに滞在したことをモンゴル語・ロシア語の資料で確認することができた。日本人のモンゴルでの活動をモンゴル語・ロシア語で確認出来たことは大発見であり、極めて重要な意義をもっている。

また、今回の研究を通じて、大正時代（例えばシベリア出兵において）、日本は外モンゴルでロシア・中国と正面的に軍事衝突を避けたのは、「日露協約」制限によるものであることを突き止めることが出来た。これは過去には指摘されていない事実であり、モンゴル日本現代史において重要な意味を持つ。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「モンゴル・日本におけるパートナーシップと安全保障関係」 (モンゴル語)、ハムスレン・バヤル、第10回ウランバートル国際シンポジウム「ユーラシアにおける日本とモンゴル」、2017年8月26、27日、モンゴル国立大学円形ホール (ウランバートル市)。
2. 「20世紀初期におけるモンゴル・日本関係のいくつかの問題」 (モンゴル語)、ハムスレン・バヤル、国際シンポジウム「20世紀初期におけるモンゴルと日本」、2017年12月25日、モンゴル国防大学国防科学研究所会議室 (ウランバートル市)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「モンゴル・日本における安全保障関係」 (モンゴル語)、ハムスレン・バヤル、『軍事研究』2017年3・4連合号、40～45ページ、2017年4月。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

1. 『20世紀前半におけるモンゴルと日本』 (モンゴル語)、ハムスレン・バヤル編著、YBHIS社、2018年6月、計150ページ。